

## 上山 敬直 氏 学位審査結果の要旨

主査：湊 直樹

副査：松田 博子、谷川 昇

$^{99m}\text{Tc}$  製剤を用いた負荷心筋シンチグラムでは、負荷検査に加え、安静時の検査を行うことがガイドライン上推奨されている。

そこで、「負荷検査が正常の場合に、安静時検査を省略できるかどうか」を評価した。負荷検査が正常かつ安静時検査を行った群 399 名と、負荷像が正常で安静時検査を省略した群 726 名の 2 群に分け、平均 4.1 年 follow up したところ、両群の心事故発症率に有意差は認められなかった。多変量解析での危険因子のを考慮して検討しても同様の結果であった。以上から、負荷検査が正常であれば安静時検査を省略することが可能であると結論した。

安静時検査を省略することにより、被ばく量・患者拘束時間・医療費の減少、検査の効率化が得られるため、本研究の臨床的意義は大きいものと考えられ、学位に値すると判断された。